

気候変動テキスト

一般社団法人環境創造研究センター

2016年2月末

前書き

岩坂 泰信

滋賀県立大学理事
名古屋大学名誉教授
本書編集委員長

今から20年ほど前、イラクに行った。そのイラクで、ヨーロッパの女性がスカートでホテルから出たところを警察官にとがめられ、ちょっとした騒ぎになっていた。もちろん宗教的なタブーの問題もあろうが、一方では「この強い太陽放射のもとでの外出となれば、なるべく肌を露出しない方が良い」と感じたものである。

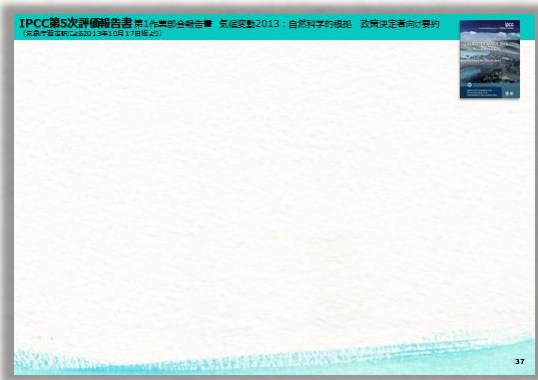
人間の皮膚の色や機能なども気候に合わせて長い時間をかけて作られたらしいことを考えれば、気候が変化するということは人間にとってなまやさしい問題ではない。個人の体から社会システムまで「今の気候に合わせて作ってある」からである。もちろん、長い人類の歴史の中で氷河期などの気候学的な変化があった。が、その変化の速さは、たとえば約1万年前に氷期が終わり、6000年から5000年前にはその温暖化のピークを迎えるなど、要するに1万年とか5千年ほどの時間の長さで生じている変動である。その程度の速さで変化すれば人間が合わせることも可能かもしれない。

ところが現在、我々が直面している温暖化問題とはそのような緩やかな変化とは本来的に違うものである。問題となっている変化はここ50年ほどの期間内に生じている急速変動なのである。その原因が、人間活動に伴って大量に大気中に放出された二酸化炭素などの温室効果ガスの可能性が高いと言う。人間の活動はエネルギーを獲得することで成り立っている。そのために大量の化石燃料を使用し、二酸化炭素を放出し続けている。この状態を改める必要が大いにあるのである。生活様式を変えてゆく工夫が求められている。

我々はそうした「現状を知り」「どんな工夫の可能性があるか」「そして何をするか」を考えねばならない。本テキストはそのような目的のために編集されたものである。使い勝手についてはいろいろ工夫できる体裁となっている。個人で、グループで、職場で、地域で、・・・、創意工夫しながら活用していただけるよう願っている。

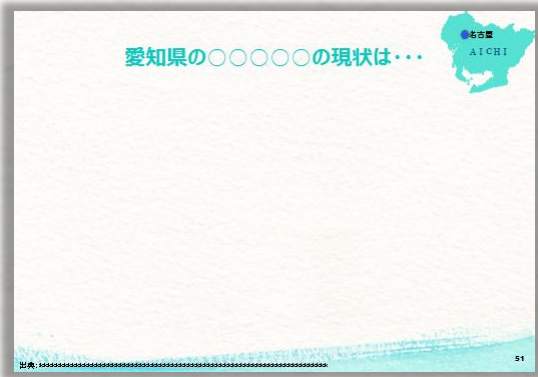
本書について

IPCCのページ



- このデザインのページには、IPCC第5次評価報告書に基づく内容・データを掲載しています。文章及び図表の引用・出典元はすべて、IPCC第5次評価報告書です。そのほかのページの引用・出典元については、出典一覧をご参照ください。

愛知トピックのページ



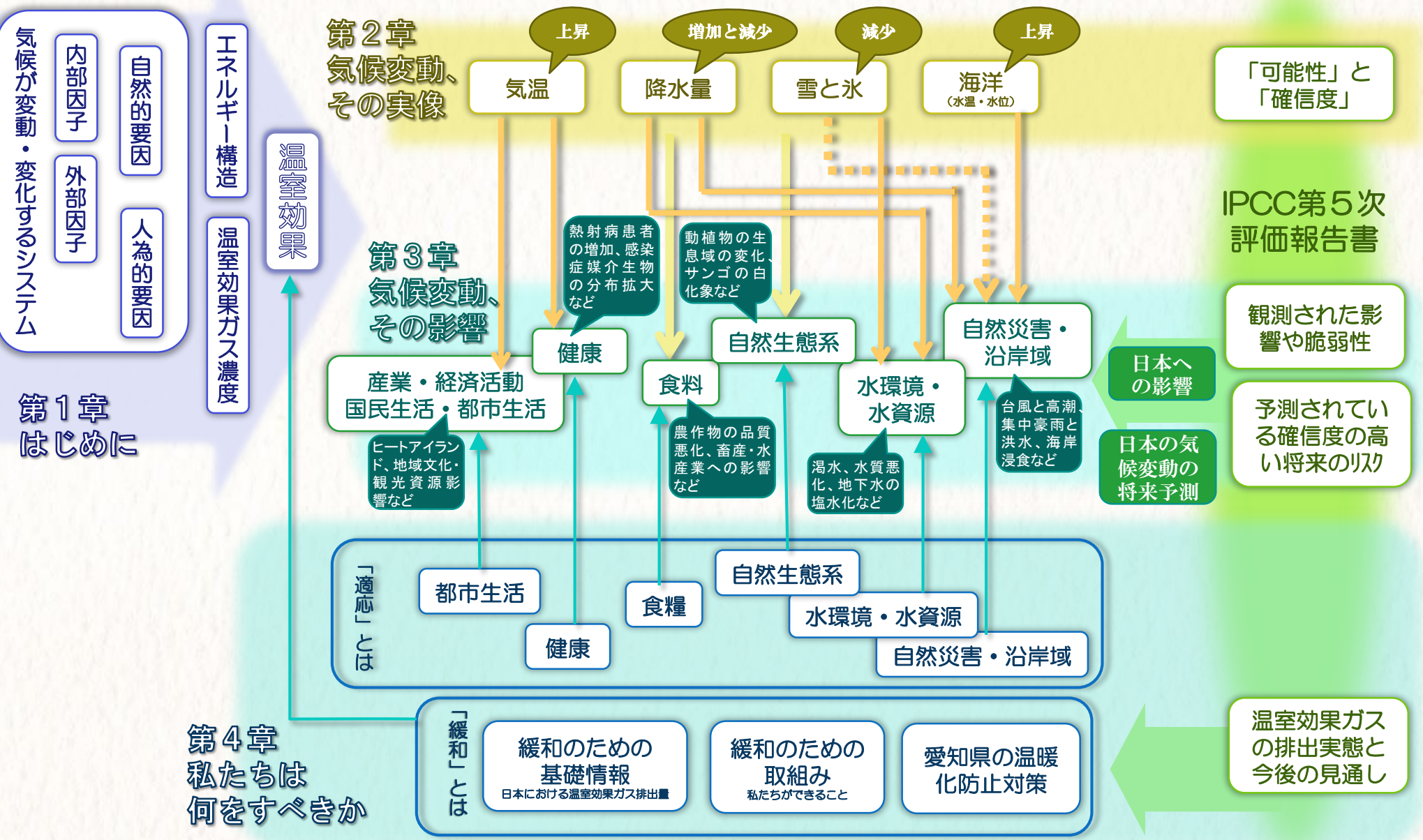
- このデザインのページでは、愛知県のデータや県内で見られた事象等の紹介を行っています。本書では、地球規模・世界規模で示されることの多い各種気候変動を、地元・愛知の関連データ、関連エピソードなどの形でも見ていただくことで、気候変動を身近に捉えていただけるものと期待し、掲載いたしました。

気候変動テキスト

目次

第1章	はじめに	6
第2章	気候変動、その実像	22
第3章	気候変動、その影響	35
第4章	私たちは何をすべきか	70
第5章	国際的な取組み	108

「気候変動テキスト」全体構成ガイド【2014年度版】



このフローチャートは「気候変動テキスト」の全体構成です。各章に含まれるコンテンツのキーワードの関連を示しています。